

觀察

第五週

藤の花

幼稚園の五月に何だか切り離せない花である。藤棚の下はほの明るく香はしい。紫のものを通して日が光る。この紫の花を散つてくる藤棚の下で、散つた花を、下つたふさで觀察させる。スキートビー等と比較させてもいゝ。各々異つた形の花弁を注意してみせ、お豆の出来る花はこんな形である。こゝ位は話してもいゝけれど無理に蝶の様な形を表現を押しつけてはならない。が私達としては豈科植物の特徴位は、手近な花に仲間が多いから知つて置き度い。その主なるものは蝶形花冠、兩體雄蕊、夾果或は節夾である。

毛蟲

毛蟲なごわかせるのはいけない、ましてあんないやな害虫を觀察させるなんて、言へばそれ迄、だがあのみにくい毛蟲から子供達が受取るだらうものゝこゝを考へてもや

り度い。氣味がわるい、こわい、言へばそういうものだから受取るのがこゝもの心の素直さである。こうした材料からしてこそ自然に親しませ度い。

普通毛蟲言へば大ていうめけむし、又はてんまけむしと言ふもので、長さが成長しきつた時で六糧内外、青藍色に橙黄色なごの縞の中で中々しぶい、きのきいたなりをしてゐる。これはおびかれは(かれは蛾科)の幼蟲で、梅、苹樹、櫻、梨、桃等の葉をたべる。その他「かれはが」の幼蟲「たけかれは」の幼蟲、まひまひ蛾の幼蟲ぶらんこけむし等種々ある。これ等の毛蟲は手をつまんでもさゝれてはれるこゝいふ様な事はまあない。「まつかれは」の「まつけむし」は昔からさゝれる事で有名であるがこれについてはファーブルが昆蟲記にその毒性を自身で試験して詳しく記してゐる。私達はその毒が何かを検討する事の爲のみでなく、こゝうした學者の自然に對する態度を知る爲に昆蟲記位は讀み

度いものである。この他「いらが」の幼蟲は柿、梨、梅、苹樹等の葉につくが黄褐色の鮮な衣裝で毒針をもつてゐるものである。

誰かがこんな毛蟲のされかをみつけたさする。子供達はまはりに寄つてくるだらう。そうしたらその歩き方、模様、色なき話し合ひ乍らみやう。子供達は、始め後の方のぞいてゐた子供まで近よつてくるに違ひない。そこでその發生の場所をさがす。こちらは判つてゐる筈だ。そこに仲間をみ出す、澤山ゐる。そうしてゐる中、これが蝶になる言ふ子供がある。先生は肯定も否定もしないで、さあ何になるか、いつまでも毛蟲ではない、こんな蟲になるか飼つて見ようを相談する。そして飼ふ事にする。但しその時成可く保育室の外で箱の中でする事にする。葉を與へて飼ふ中子供達は變態をそれに伴ふ蟲の種々の行動に何さなく多くの不思議を感じるであらう。氣味のわるいこまなきも忘れて。

次に門外を通る自動車電車を見に行く、近くの消防署を見に行くさいふ事がある。第八週にも停車場、近くの郵便

局をみに行くさいふ事がある。これ等は誘導保育案に關係して出て來る材料であるがこうした事がなくても社會觀察の一つとしては非し度い事である。いつもこの様なものが好きで注意して、大人の及びもつかない自動車通が多いから言つて、「こんなものは自然に觀察してゐます、さ安心してはならない。全然注意しない子供達も同時に多い、これにさせ度いから立てる課程保育案なのだから。みんなで門の外へ出るこまが大きな嬉しいこまである、はしやいで危険を注意しつゝみんなで作つてゐる町のこまに關係をつけて話し合ひ乍ら觀やう。

第六週

小鳥 年少組參照

幼稚園の種々な木の葉

成長した木の葉をみる。思へば色々な形がある、さ感心するわけではないが秋の紅葉の折みるにつけても若葉の間に形や色感じなき見ておき度い。大きな紙にみんなに別々の葉の形をみてかゝせてみるさ面白いものである。豫め保姆が木の名を充分知つて置く可きは勿論である。

第七週

クローバーの花

クローバーと言つてゐるのは、豆科植物の「オランダゲンゲ」一名「しろつめくさ」で歐洲原産の宿根草本である。本校へ遊びに行つて一ぱいつんで來たクローバは花束にしたりわに編んだりしても尙餘る程だ。これは香のいゝのを、藤の花の様な形の小さい花が集つてゐる事を注意する。まつ白のやうでもまん中がもゝ色のや紫おびたのがあるのをみつける事もやさしみあることである。

デージー ひなげし

デージー(ひなぎく)、ひなげし共に花壇の花で今を盛り可愛いらしい花である。子供達こゝしに花壇まで寫生に來やう。

小鳥の巢ごもり

小鳥が卵を暖めてゐる。これはぎうしてだか、何だかよく分らない乍ら嬉しく興奮して小屋へみんながかけつけて行く、ぢつこ巢にしやがんでゐる母鳥をみてゐる。しばらく黙つて眺めてから子供達にはひよこがお母さん鳥にあた

ためられた卵からもう二十日位するこ生れるのだからさわがないで毎日お見舞しませうとだけ話す。

第八週

小さなばった

草叢なぎにもうバッタが出てくる。この小さなバッタの中にはダイメウバッタ、シャウリヤウバッタ、キチキチバッタ等の幼形もある。これ等は灰緑色で一見弱々しい。がヒシバッタ、ツチヒシバッタ等の大きくならないバッタの場合もある。後者は多く灰色、灰褐色であるから色別がつく。それ等の形の面白さを見やう。バッタに限らずこの時分草原にゐる飛んでくる蟲を氣をつけてゐるこにし度い。

蟻の巢

兵隊ごっこの間、まゝごこの間に草原でふこ見付けた蟻の巢が子供の心を捕へてしまひ劍もお茶碗もほつて眺め入る。そこらの子供を呼び集める。蟻は今しも食物を巢へ運び込まうとしてゐるのだ。そうしてみてる間にぎうしても手を出さずにゐられない子が穴に指をつゝ込んで掘出してしまつた。長く廊下の様につゞいた穴がわかつた。「食物

を運んでる蟻さんのお家をこわしては可愛さうだからよしませう」ミ早く言ひ度かつたのだが、一方こゝまではさせて見たいのである。徹底的破壊はやめさせて、その代り蟻十匹程を四角のガラス鉢に土と砂を入れた中へ、飼ふさい。ガラス鉢にそつてよく見える様に巢をこしらへて呉れるからこれによつて先のデレンマから救はれやう。因に普通の蟻はくろあり大くろあり大ありまれにあかありがある。

手 技

第五週

自由畫 景色の寫生 一回

幼稚園の庭木、山なごをこく簡單に畫けるだけ畫かせる。

椅子やクレヨンなごを庭に持ち出して畫くもよい。

幼稚園の附近の地圖 二回

誘導保育案による幼稚園附近の地圖は幼兒と共に話しあ

ひながらお隣りより順次黑板に本校、小學校、女學校、

そら豆の實

幼稚園の畑のだつたら一しよにつみ取つて（これが望ましいが）でなかつたらさやごごのを買つてくる。そしてむかせる。さやのまはり、中のビロードの様な肌ざわりは氣持がよい。お豆の形をみさせ、一つのさやの中の豆の数を銘々かぞへさせる（その爲一兒一つのさやにしてもよい）そして互に數を比較させる。この材料は簡単な數觀念の養成の方に重心を置く。

校門、電車道、市電大塚終點、大塚驛、大塚仲町交叉點、

護國寺なごの略圖を畫く（この圖を整理した）後にハトロ

ン紙なごに平面圖をかく。

粘土 自在 一回

製作 商店（誘導保育案による）二回

ボールの空箱にて商店をつくる（前週のつづき）今週は商品なごをつくる。